

新宿公民館便り

～つどい まなび つなぐ～

穏やかな正月が過ぎ、今年の寒の入りは1月5日。大寒が1月20日ごろ。暦どおりの気温の変化に、「寒すぎる～」とわがままな一言がついて出る。暑すぎる夏をあんなに嘆いておいて・・・。

雪国では例年以上の積雪。毎日の生活は大変なご苦労がおありだろう。親戚、知人の方がいらっしゃる方はご心配でしょう。お見舞い申し上げます。



公民館には早春の花、菜の花が黄色い花をつけた。もう少しの辛抱だ。

明日は立春。暖かい日がやってくる。

主催事業報告 1/24(土) 「新宿寄席」



NPO 法人フォーエヴァーの皆さんが午前中から講堂を寄席に作り替え、出囃子も鳴らされ、赤い高座に紫の座布団、垂れ幕に提灯など寄席の雰囲気を作ってくれました。現役大学生2名を含む落語 4 席を楽しみました。約2時間、笑いに包まれた時間でした。

仲入り(休憩)の後のワークショップでは、落語の歴史やしきたりなどの説明もありました。扇子は簪やたばこ、手拭いは財布に代わり表現することなど説明も。そして扇子を使ってそばを啜る体験も



【新宿公園 水仙】

ありました。落語クイズには、参加者の皆さんは挙手して答えるなど盛り上がり、正解者には扇子やボールペンの景品も用意されていました。

【演目】

宇田川狂鷄	「石返し」
火の見家はん生	「禁酒番屋」
せんよう亭田生	「初天神」
一め家ここあ	「ぜんざい公社」

アンケートには、こんな近くでこんなに面白い落語が聞けてラッキーです。来年もぜひお願いします、との声を多くいただきました。来年1月にも主催事業として計画しますので、お誘い合わせのうえ、ぜひお越しください。

ここで整いました。

「フォーエヴァーさんの寄席」とかけまして

「新宿公民館の主催事業」とどく。

そのころは・・・今年もコウザが素敵です。

他の施設利用にあたって

すでにお知らせしていますように、新宿公民館は 4 月1日から約5か月間、空調設備工事のため休館となります。その間の活動場所についてはチラシや口頭でご案内しているところですが、すでに探し始めて4月の予約をとれたサークルもあります。長きにわたり使い慣れた新宿公民館を離れることに抵抗もおありだと思います。ご不便をおかけしますが何卒ご理解ください。

他の施設を利用する場合は、ご注意ください。

- ・千葉市内の公民館を利用する場合
 - ID カードの番号で利用・予約可能
- ・コミュニティセンターなど他の千葉市施設を新たに利用する場合
 - 登録申請書類を該当施設に提出することになります。お問い合わせください。
- ・駐車場の利用(何台止めてもよい)
- ・借用備品(CD・MD・カセットプレーヤー、延長コード、プロジェクター、マイク、ホワイトボードマーカーなど)
- ・利用時間(特に、鍵を受け取れる時間)などなど、これまで新宿公民館では“普通”にできていたことが、他の施設では多少異なる場合もある

と思いますので、その施設の方針に沿って利用するようにお願いします。まずは電話で利用希望施設にお問い合わせをして確認してみてください。

ハジマルノダナ・・・

2月2日、空調設備工事会社の方々が、現地下見ということで来館しました。屋上の室外機や各部屋のエアコンの位置などを、細かく書かれた設計図を見ながら確認していました。傍で話を聞いていると、・・・ここからここまで天井をはがして・・・これはそのままかあ・・・これはどこにつながつてるのかなあ・・・、など聞き漏れてきました。

工事が始まると、一切入館ができなくなります。定期団体が使っているロッカー内の荷物を休館中に使う場合は、3月末日までに取り出して、各団体に保管するようお願いします。

廃材置き場のことや作業開始時間、関係団体との打合せ会や作業工程表の提示などの説明もありました。4月1日スタートに向けて、小さく一歩進んだ感じがしました。

イヨイヨ コウジガ ハジマルノダナ

音楽の力 ～バイオリンの音色：「愛の讃歌」～

「愛の讃歌」という曲を皆さんご存じでしょう。日本の高度成長期、外国文化に触れさせてもらった越路吹雪さんの歌声が聞こえてきますか？

♪あなたの燃える手で～ あたしを抱きしめて～
それとも、2024 年パリオリンピック開会式で魅せた、エッフェル塔のバルコニーでのセリーヌ・ディオンの圧巻の歌声でしょうか？

♪・・・mon amour モ・ナムール(フランス語はわかりません) ♪ただ二人だけで～ 生きていきたいの～

昨年の春先、個人利用の申請に一人の若い女性が来館しました。

「どんな利用ですか？」と尋ねると、

—「バイオリンの練習をしたいんです。」

それから、ほぼ週に2回ほど来館し、バイオリンの個人練習が続きました。はじめは、キーコー、ギーコーとした音しか聞こえていなかったのですが、初心者の方がバイオリンを始めようと公民館を利用しているのだな、とみていました。

ある日、一人の男性と一緒にいた日がありました。同じ趣味かサークルの仲間かなと、その時は何も思わなかったのですが、来る日も来る日も二人連れです。そしていつか、聞こえてくる“音”も次第に音楽に、“メロディー”になってきました。確実に練習を積んでいることが音色でわかります。

そして！ 「私たち来年の春に結婚するんで

す。」「結婚式でお返しにバイオリン演奏を・・・」

なんと！ 素晴らしい！ おめでとう！（拍手）

私は嬉しくなって、「なんだ、そうだったの。それなら演奏曲は【愛の讃歌】がいいんじゃない？」と、なぜか頭に浮かんだ曲を軽く提案したのでした。その時の二人の反応は、“う～ん・・・”

それからしばらくして、2階の講習室から、それらしい調べが聞こえるようになりました。「あ・な・たの・も・え・ー・る・で・で・ー」・・・そのぎこちない演奏が、私には可愛く、ほほえましくて、ほっこりして、次は？弾ける？と応援したくなっていました。

年が明けて1月のある日、館内を回っていると、会議室から“メロディー”が聞こえてきました。

「♪ただ命の限りー あたしは愛したいー」・・・伴奏もついて曲に厚みも出てきていました。会議室に近づいて、隙間からそっと覗かせてもらいじっと聞き入りました。二人並んで楽譜を見ながら懸命に弾いています。真剣な表情です。

ウェディングドレスとタキシードの二人が、披露宴会場にいる人々の視線を一身に浴びて、「愛の讃歌」を演奏しているのです。私はその片隅に座って聞いている。（と、妄想している。・・・まったくバカですよエ～。）

「♪あたしーを燃やす火 心とかす恋よー♪」
最後まで弾き切りました。私はもう黙っていらなくて、ドアをノックして、「ブラボー！ 素晴らしい！ 感動した！」と拍手。二人は驚いたような、照れたようなままだです。私はそんな素朴な二人にそれ以上話しかけられませんでした。目の奥がジーンとして感情が溢れそうな感覚だったのです。

あんなだったバイオリンの音が、いつの間にかこんな音楽に変わっていました。二人の様子を約一年間、少しだけ見てきた私にとっては、もうそれは感動なのです。演奏としてはまだまだつたないのかもしれませんが、二人の佇まい、表情、これまで練習してきた時間に接し、また結婚式への思い等々を想像すると、私には何より素晴らしい演奏に聞こえます。

幸せな時間をありがとうございました。

二人のバイオリン演奏は、より温かく幸せな結婚式を彩るのでしょう。ご結婚おめでとうございます。

二人の人生に、幾久しく幸多かれと祈ります。

弦の音が 部屋暖めて 春支度

芽が出たぞ も少ししたら チューリップ

（ 新宿公民館 館長 迎 浩二 ）